

TAKE FREE

# 2M+

vol.  
03

北海道教育大学岩見沢校 卒業生へのインタビュー



+ 助手・アニメーター

さとう ゆか

SATO YUKA

## Topics

- 美術を始めたきっかけ
- アニメーションとの出会い
- 大学院での活動
- 仕事と制作
- 北教大岩見沢から、その先へ

## ZAWA+について

2020年より、新たに始まった i-BOX のシリーズ企画「ZAWA+」。本展では岩見沢(ZAWA) から飛び立った、卒業生のその後と現在(+)をご紹介します。岩見沢校が現在の芸術・スポーツを学ぶ大学に形を変えてから十年以上が経過しました。これまでに岩見沢の地を巣立った卒業生たちは、社会経験を積みながら近年、活躍の幅を広げつつあります。教員、会社員、クリエイター… 様々な進路に進んだ卒業生たちは、今一体何を考え、何を作っているのでしょうか？「ZAWA+」では、社会とかかわりながら、自らの作品を作り続ける卒業生の皆様をご紹介します。



## さとうゆか

vol.  
03

+ 助手・アニメーター

さとうゆか29歳。1992年、北海道生まれ。幼少時代は母親が勤務する病院の附属保育園と幼稚園にダブルで通う。友達の親も医者や看護師が多く、必然的に本格的なお医者さんごっこで遊んでいた。当時、お月見の絵を褒められ、嬉しかったことが、絵に対する最初の記憶。

小学校時代は水泳、合唱団、ヴァイオリン、生け花、塾など、一番多い時期は計7つの習い事を行う。特に水泳とヴァイオリンに熱心に打ち込んだ。HBCジュニアオーケストラにも所属し、高校時代はヴァイオリンで北海道教育大学岩見沢校音楽コースに進学することを目指すも、恩師の逝去により進学をあきらめる。その後、看護師の道を進められるも、絵を描くことや美術の授業が好きという経験から、一転して北海道教育大学岩見沢校美術コースへの進学を目指すことに。進学後はアニメーション制作を行いながら、数々のイベントを開催、上映団体「EZOFILM」を立ち上げ東西に奔走。大学院修了後は京都精華大学に助手として就職を果たす。

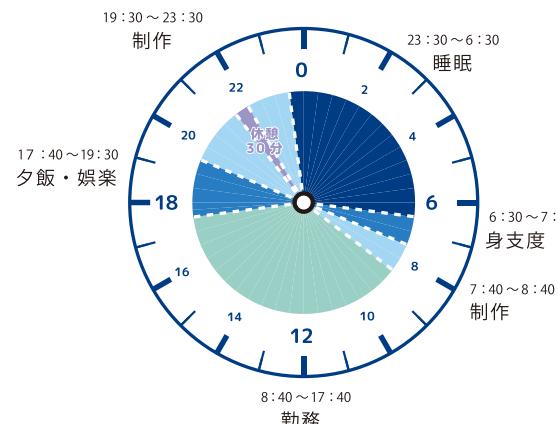
現在は、秋田公立美術大学コミュニケーションデザイン専攻助手として働く傍ら、抽象アニメーションやトップモーションアニメ制作するなど、アニメーション作家としての活躍も続けている。好きなものはお笑い、マンガ、美味しいご飯。

サトウさんってどんな人？

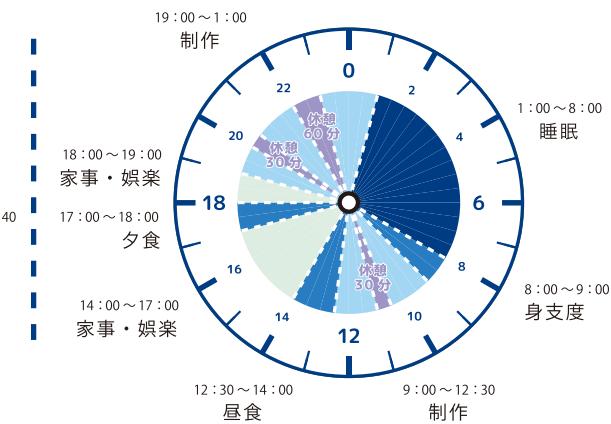
# HITOTONARI SPACE

## Q.1 | サトウさんの一日

### 【平日】



### 【休日】



## Q.2 | サトウさんの5カジョウ

- + とりあえずやってみる
- + 面白いと思うことは人に話す
- + 直感で動く
- + ちょっとだけ勇気を出す
- + だめな日は寝る

## Q.3 | 現在のお仕事



秋田公立美術大学 コミュニケーションデザイン専攻の助手をしています。空いた時間に作品制作・研究など。



アニメーション作家として、国内外の映画祭で活躍。また、上映団体「EZOFILM」の代表としての顔も。



※5…「HANIMATION (2017)」

※6…1985年より広島市で2年に1回行われた国際的な短編アニメーションの映画祭。第18回となる2020年で幕を閉じた。



※4…「ダガシノアレ (2012)」。皆誰でも食べたくなるダガシのアレ。空からたくさん降ってきて…、幼いころ多くの人が食べたことのあるであろう駄菓子の四角いピンクや緑のもちもちしたあのお菓子を使ったコマ撮りアニメ。



※2…指導教員の退官に伴い、版画研究室は2010年で募集停止となった。

※3…(写真左)アニメーション研究室 倉重哲二先生。卒業式にて。



※1…その後、消しゴムはんこを使用したコマ撮りアニメーション作品「あいうえおりこ (2013)」を制作することになる。

### 糸余曲折を経て美術の道へ

「幼い頃はどんな子どもでしたか。

数々の習い事を幼少期から行つていましたが、もともとはヴァイオリンで北海道教育大学の音楽コースに進学をしようとしていました。ところが、教えてくれていた先生が亡くなつたことや、オーケストラが大変だった経験から音楽の道は諦めました。看護師の親からは、「看護師はいい仕事だよ」と言わわれていましたが、当時は反対期だったため、看護師以外の道を探していましたね…。

「美術を志すきっかけは何だったのでしょうか。

そんな時に、絵を褒められた記憶や、純粋に絵を描くことが好きという気持ちがきっかけで美術系の大学を目指すようになり、美術系の予備校に通い始めました。他の受験生に比べると、絵の勉強を始めたのは高校3年の夏と遅かったです。立方体が真っ直ぐ描けないところから始まり、1月になつても光の反射が描けない、着彩が下

手という状態でした。ところが、センターテ試験の結果が良くて肩の荷がおりたのでどうか、絵に集中できるようになつた結果、実技試験の直前に急にモノの見方がわかるようになりました。

肝心の実技試験、1日目は遅刻をして焦りつつも、昼休み終えたくらいからはだいぶ描けて、なんとか完成。2日目のデッサンは無我夢中で頑張って、なんとか岩教室に合格しました。

入る大学を間違えた?

「入学して待ち受けているのは…」

大学に入学してすぐ、入る大学を間違えたのではないかと思いました。周りにいる同期は、中学校・高校の美術部として活動して来た人や、美術系の高校出身者、高文連で賞を取つた人など上手な人ばかり。当時はどの研究室に入るのが決めるのは2年生からだったので、1年生の時は金属工芸やデザイン、空間造形などあとでもらえる授業を受けました。もともと

趣味で消しゴムはんこを作つていて

たので、版画研究室に入りたいと思つていました。が、いざ研究室の配属希望を取る際になつて、先輩から口頭一番「来年から版画研究室ありません!」という衝撃の言葉が…。<sup>2</sup> どこに行くか決められず、学年担任の先生に相談したところ、意外なことに「どこの研究室でもやりたいことが出来るよ」と言わされました。

その時に相談に乗つてくれた先生が面白くつ、その先生の研究室に入ることにしました。それが、アニメーション研究室の倉重哲二先生でした。ここが、私がアニメーションの道へ進む分岐点です。倉重先生<sup>3</sup>が学年担任で良かつたですし、私自身の運も良かったと思つています。

「アニメーションとの出会い」

「動かないものが動く

「実際にアニメーション研究室に入ったみて、どうでしたか?」

「右も左も分からぬアニメーション研究室に入つて驚いたのは、作り方がわからぬはずなのに、

「そんな中で、何か刺激を受けた出来事はありますか?」

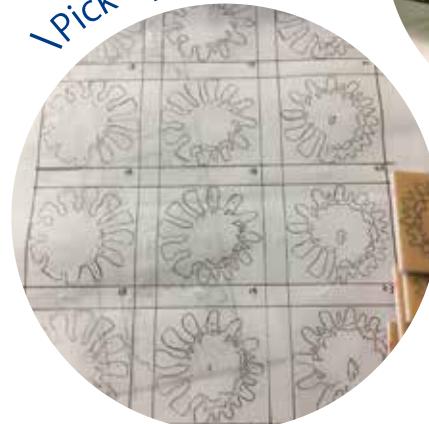
学部2年次、広島国際アニメーションフェスティバル<sup>4</sup>に行きました。なじみ深いテレビアニメではなく、物語のないアニメやさまざまな素材を使ったアニメをたくさん見ました。そこには、アニメーションを作り続けている大人たち



※7…「R.I.P. (2014)」。消しゴムはんこを使用したコマ撮りアニメーション作品。

テーマは「自殺」。自殺に興味があった。自殺するって誰にも会いたくないだろう、もしその時誰かに見られていたらちょっと怖い。死ぬ前から見つかるまでずっと女の子がそばにいるというアニメーション。

/Pick Up!/



【消しゴムはんこアニメーションの制作風景】

動きに合わせて何種類も形を彫り、1コマ1コマハンを押して動かしていく作業は骨が折れそう…。

がたくさんいました。この頃はまだ、アニメを仕事にするとかはわかりませんでした。広島でやるようなインディペンデントアニメを仕事にするのは難しいかも、とわかったのは、それから2年後の4年生くらいです。

それまで、アニメーションは教育大の美術コースだから、と本業のような感覚でやっていました。趣味よりはやるべきことって感じ。いっぽう、親はアニメや芸術ってお金(=仕事)になるの?食べていけるの?って聞いてくるんですね(笑)。将来教員になるから、まだ安心できるけれど、私がやっていることを仕事や学問として認めているわけではなかったと思いません。でも、作品づくりはお金のためにやってるわけじゃない。映画祭で実際に作品を作る『大人』の姿をみたことは、アニメーションとのかかわり方を考えるきっかけになる出来事でした。

——大学卒業後の進路設計は?

——大学卒業後、大学院へ

員にならないのに大学院に行っても…と思う時もありましたが進学を決めました。

#### 映像作家としての目覚め

##### ——大学院での活動について。

大学院入学後はアルバイトをしながら通いました。若見沢市内の中学校で非常勤の教師をしたり、福祉関係施設の夜勤、その他バイトをしながら大学院で授業を受けしていました。

この頃、いくつかのコンペに作品を出していました。しかし、なかなかノミネートされないので大学院1年生の時にアニメーションを作ることをやめようと思ったこともあります。ところが、アニメーション研究室の倉重先生が過去にノミネートされた「オランダアニメーションフィルムフェスティバル」に卒業制作の「R.I.P.\*7」がノミネートされました。これが初めて映像作家として映画祭に参加した出来事でした。オランダでは様々な海外の方に出会い、とても楽しかったです。そこから

#### 大学院の実際

——さとうさんにとって大学院ってどんな場でしたか?

体感では学部は教育機関ですが、大学院は研究機関と感じました。

周囲は就職活動をしている中、将来が見えなくて焦りました。教

色々な映画祭に作品を出すようになりました。ますます制作に力を入れ始めました。大学院2年のときから日本映画祭にもノミネートされ、映像作家として国内外の上映会・映画祭に多数参加したり、自分でも「EZOFILM\*\*8」という団体を立ち上げ、上映会の運営を行いました。

大学院最後の年は、卒業か退学かという瀬戸際にいました(笑)。修了するためには論文と修了制作が両方必要です。あとは論文さえ書けば修了できる、ということで、高校での非常勤講師を2クラス分掛け持ちしながら、日々授業を考え、作品を制作し、論文を書きあげました。学生生活も最後だし、なんかやりたいな、と思って各種上映会や「赤電アート商店街\*\*9」など様々な企画を行いました。

卒業後は大学院に進学することを決めました。というのも、教師になりたかったので大学院でも専門知識を学ぼうと思っていました。ところが、3年次に行つた中学校の教育実習で現場に立つてショックを受けました。中学校の先生つて生徒指導が大事なんですね。もともと、リーダーシップのある同級生は得意じゃなかつたし、背の大きい生徒は怖いしで、自分には教職が向いていないと思いつつ、教員になることを諦めました。

一方で、この時研究室の上映会を運営しました。毎週会議をしたり、先生の車で下見に行ったり、とにかく楽しかった記憶があります。ただ、私は自分勝手な人間だったので、揉めたり喧嘩することもたくさんありました。その後、学部4年生の時には新千歳空港国際アニメーション映画祭が誕生したので、ボランティアをしながらたくさんのアニメを見ました。その時に映画祭の運営も楽しそうだなと思うようになりました。



※写真左上…「2017 EIFFA」台湾の映画祭にて

※写真右上…「昨日はすべて返されろ(2019)」修了制作

※写真下段…「赤電アート商店街」当日の様子 岩見沢市郊外のレストラン「本地のテラス」にて

—現在のお仕事について。

『北海道の良さ』も見えてくるかと思ひます。道民は外に出たがらないってよく言われるしその通りだと思いますが、外に出ることで自分のルーツを確認するというか…作品にもいい変化があるのではないかと思つています。

修了後は、まず京都精華大学マンガ学部の助手として働き始めました。授業の準備や出席管理、学生指導を行っていました。岩教とは違いについては、やはり私立大は設備が良いな、と感じました。学生の作りたいものの費用を大學が準備してくれたり、デッサン用に鹿を飼育していたり。あとは、全員が美術をやってるので学生の雰囲気からして違いました。着物を着ている学生もいれば、仮面



※8…先輩や後輩に声をかけ設立した上映団体。当初は第2マルバ会館(札幌市)、よりどこオノペカ(札幌市)などで個人制作のインディペンデント映画等の上映を行っていた。その後、さとうが京都へ行き、京都のVIDEO PARTYに参加してから、京都で活動する「VIDEO PARTY」(京都)にて主催者として活動している。

たことから、京都の上映団体「VIDEO PARTY」と共同上映会を行つようになる。※9… 岩見沢市栗沢町にある「大地のテラス」に保存されている「711赤い電車」内を使用した、学生作品の展示販売会。開催は僅か1日であるが、500名の集客を目指す。

※10. 大学院のプログラムに変更について、2010年度を最後に募集が停止された

\*10… 大学院のプログラム改変に伴い、2019年度を最後に募集が停止された。

一現学生へ向けて。

られる大事な時間でした。

学部の時って、色々と縛りというか条件が多いですよね。そのかわり、きちんと指導は入るし、自分の作りたいものに対する的確なアドバイスが先生から貰えます。



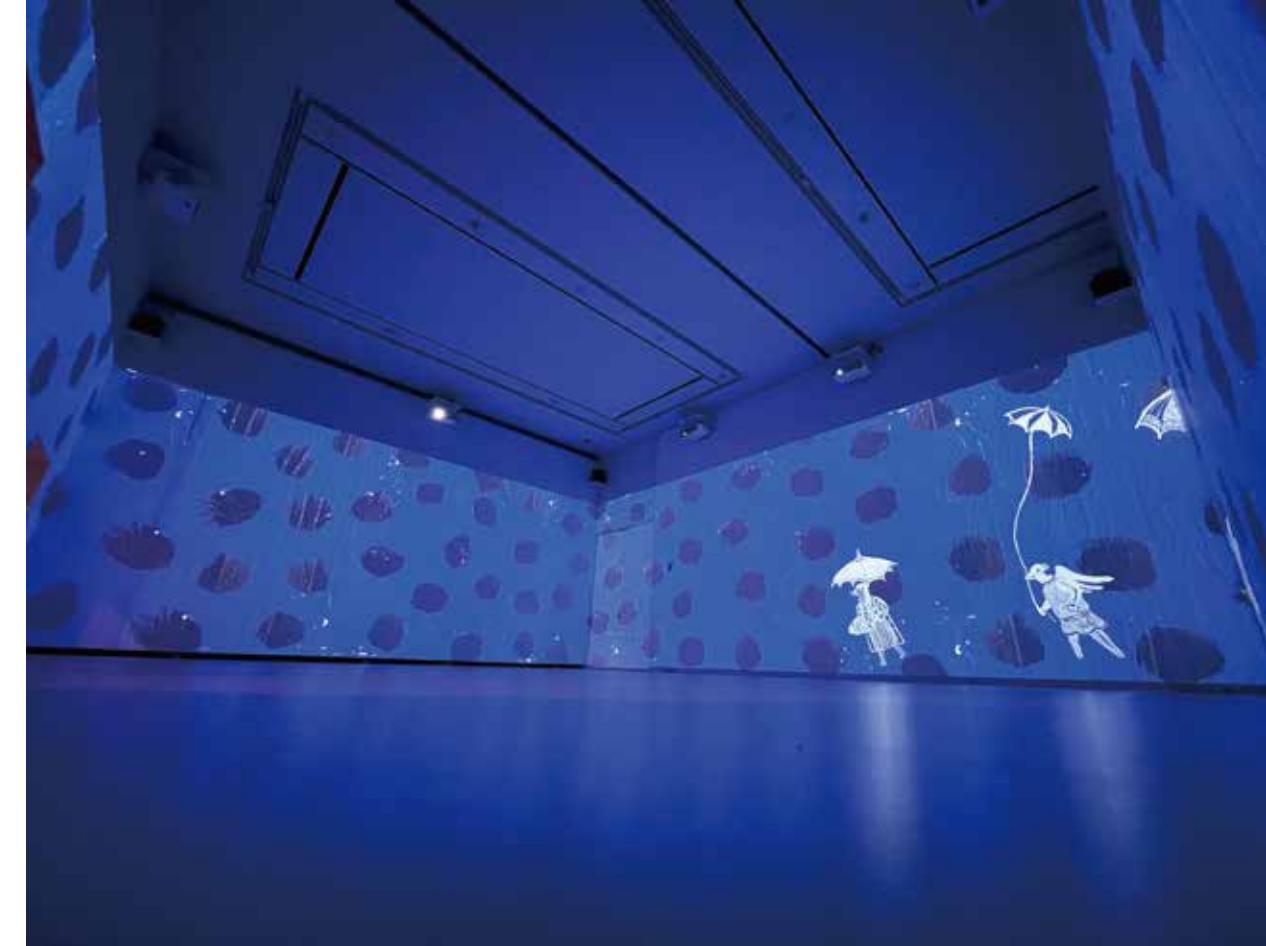
※13… 近年ではミュージックビデオ作品や、プロジェクションマッピング作品等にも多数参加している。

「彗星」(小沢健二/小松真弓/2020)、テレビ東京「シナぶしゅ」「はるまつワルツ」(東郷清丸/水江未来/2021)、NHKみんなのうた「小さきものたち」(MAN WITH A MISSION/大川原亮/2021)、「手に取る宇宙」(手に取る宇宙実行委員会/2021)(写真)など。

「アニメーションの今後について」

映像は商業から始まったもので、まだまだ発展途上のジャンルと言えます。油絵のような絵画は14世紀ごろ、アニメーションは19世紀ごろ写真が出来たあとに発明され、見世物として発展しました。出发点が美術じゃない分、これからもどんどん変わっていくと思います。最近だとチューバーやモーションキャプチャなど、評論や批評が追いつかないほど表現が進化している分野です。

アニメーションには教育を受けていない人でも面白い作品を作ることができます。自分が作品を見た人が新しい作品を生み出してくれたらいいな、と思います。

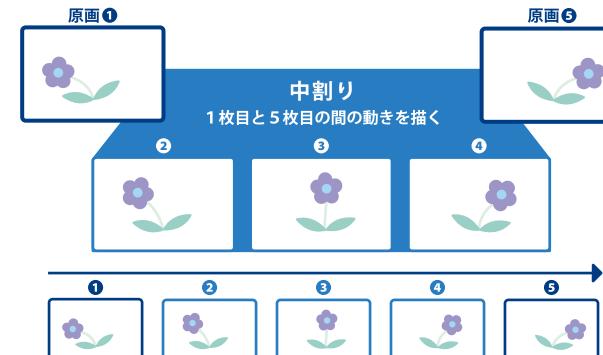


「アニメーションの魅力」

「アニメーションって?」

アニメーションって、夕方や深夜のテレビアニメを想像しがちですよね。それ以外のアニメって何?って感じだと思います。でも皆さん、目にしているはずです。たとえば、NHKの「ブチブチ・アニメ」。あの番組内では、コマ撮

ピス100周年記念企画「ミュージックアニメーション」「タナバタノオト」などのCM制作に携わったり、最近では、「コシノヒロコ展(2021年兵庫県立美術館)」のプロジェクト「コシノヒロコ展映像監督を勤めました」<sup>※12</sup>。



※11…(図解) 原画と原画の間の画を描く作業。アニメーションの動きをなめらかに見せるために描く。

※12…(写真) 2021年4月から兵庫県立美術館にて開催された「コシノヒロコ展」での展示作品。コシノヒロコの絵画を使って一部屋4面4K映像のプロジェクト「コシノヒロコ展映像監督を勤めました」。

をつけた先生もいましたね。私立の美術大学ってすごいなと思いました。

現在は秋田公立美術大学の助手

として働く傍ら、自宅でアニメーターとしての仕事をしています。

アニメーションはリモートで制作が出来るのが強みですね。色塗りや、中割り<sup>※11</sup>と呼ばれる原画の制作

作業などをしていますよ。カル

ピス100周年記念企画「ミュ

ージックアニメーション」「タナバ

タノオト」などのCM制作に携わっ

たり、最近では、「コシノヒロコ展(2021年兵庫県立美術館)」の

プロジェクト「コシノヒロコ展映像監督を勤めました」<sup>※12</sup>。



## ロゴについて

卒業したあとどんな仕事をしていても、生活をしていても、大学で学んだことや、大学の仲間たちと過ごした時間は生かされている。どんな経験も、この先の自分につながっていく、という意味を込めて、「ZAWA+」の文字を一筆書きのようにつなげました。また“人生山あり谷あり”というイメージに合わせ、丸みを帯びたデザインにしました。

### ZAWA+ vol.03 さとうゆか「あちらとこちらの間で」

会期：2021年12月15日（水）～12月27日（月）

時間：10:00～12:00、13:00～16:00（※最終日は15時まで）

会場：北海道教育大学岩見沢校 BOX [i-BOX]

岩見沢市有明町南1番地1 JR岩見沢複合駅舎 有明交流プラザ2階

入場無料

企画：北海道教育大学岩見沢校 i-BOX

尾崎芳子 / 煤田真実 / 佐藤夏月

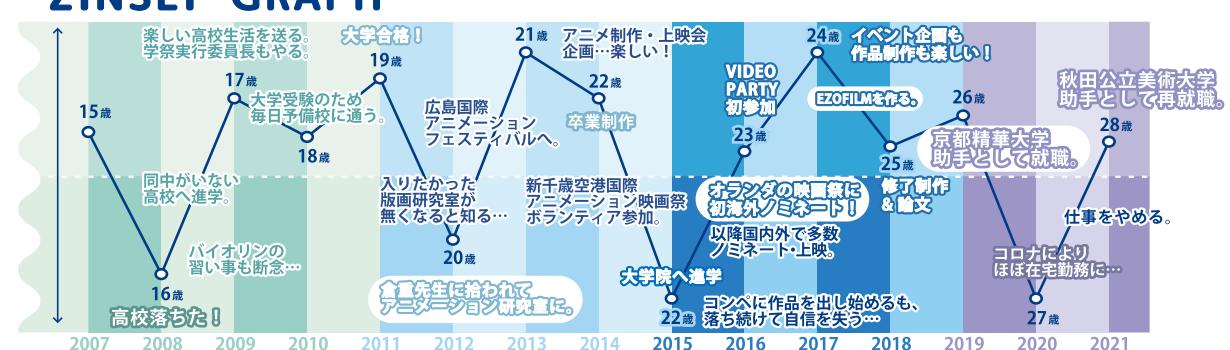
藤野留朱 / 藤本悠平 / 中島聰一朗



変な話ですが、私は学生時代が終わったら人生終わりだと思っていました。卒業後は老後のイメージ。ところが、働き始めて人生が続いていることに気づきました。当たり前ですけれど…。働き方、制作のこと、まだまだ考えていかなきゃいけない。卒業は決してゴールじゃないんです。

社会に出て「将来」を考えられるようになった今、助手として学生たちが「未来を見据えて生活するために」必要な考え方や情報を伝えていきたいと考えています。

### ZINSEI GRAPH



2W+